

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第206号
令和7年3月25日

文部科学省委託事業「インクルーシブな学校運営モデル事業」

本事業は文部科学省の委託事業で、インクルーシブ教育システムの推進に向けた取組として、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒がともに学ぶ発展的な交流及び共同学習の実践研究や、府と市という設置者を越えた学校の教員同士の研修を進めています。令和6年度から3年間の予定で、京都府立舞鶴支援学校と京都府立聾学校舞鶴分校、舞鶴市立城南中学校区小・中学校を研究指定校として、事業を進めています。1年目の今年度は「知り合う」をテーマに取り組んできました。この「まなび通信」では、研究指定校が取り組んだ一部の内容を紹介します。

研究指定校：京都府立舞鶴支援学校、京都府立聾学校舞鶴分校
舞鶴市立池内小学校、舞鶴市立中筋小学校、舞鶴市立高野小学校、舞鶴市立城南中学校

【キーワード】 1年目（R6）

知り合う



2年目（R7）

つながり合う



3年目（R8）

学び合う



舞鶴市立池内小学校

サツマイモ交流

池内小学校は、舞鶴支援学校の開校当時から交流を続けています。毎年行っているサツマイモの栽培を通じた交流に、今年度は高野小学校の児童も一緒に苗を植えました。収穫には中筋小学校児童も加わり、4校の児童で芋掘りをしました。3学期には、4校が「収穫した芋をどうしたか」というテーマで、オンライン交流をしました。

他にも、舞鶴支援学校の教員が池内小学校の授業研究会に参加し、通常学級の授業での手立てや支援について一緒に協議をするなど、教員同士が学び合うこともできました。



舞鶴市立高野小学校

聾学校舞鶴分校との交流

高野小学校は、53年前から聾学校舞鶴分校との交流が続いています。

今年度は、初めての取組として、高野小学校児童が舞鶴分校を訪問し、校内の施設を案内してもらったり、聾学校で取り組まれている太鼓と一緒に演奏したりしました。

実際に太鼓の演奏を体験した5年生児童は「これまでは聾学校の太鼓の発表を聞くだけだったけれど、自分でやってみて、こんな大変なことをやっていたということがよく分かった。」と感想を話していました。



京都府立舞鶴支援学校

京都府立聾学校舞鶴分校

舞鶴市立中筋小学校

空き教室を利用した取組

中筋小学校では、舞鶴支援学校の児童が空き教室で学習をする取組を行いました。この取組では、舞鶴支援学校児童と地域の小学校児童との交流及び共同学習を継続的に実施し、舞鶴支援学校児童が、居住する地域の学校でも学べる環境や体制づくりを目指しています。

この取組を実施した日の休み時間には、中筋小学校児童が空き教室に来て舞鶴支援学校児童に声をかけたり、両校児童が運動場で交わって遊んだりする等、自然と関わる姿が見られました。

空き教室利用の取組は城南中学校区全ての学校で実施しました。



舞鶴市立城南中学校

準ずる教育を受ける支援学校生徒との交流

城南中学校では、舞鶴支援学校に通う準ずる教育を受ける中学校3年生の生徒が、週に1回城南中学校で共に国語を学習しました。他にも、道徳の授業や体育祭・文化祭交流、給食や昼休みのリモート交流などを通して、交流を深めました。お互いの給食を教え合ったり、質問をし合ったりするなど、微笑ましい姿が見られました。

交流の取組が始まる前には、舞鶴支援学校教員から学校の様子やどんな学習をしているか等について、話を聞く機会を持ちました。



準ずる教育…教育目標や教育内容を中学校学習指導要領に準じて行う教育課程のこと

「インクルーシブな学校運営モデル事業」1年次事業報告会

2月28日（金）に、京都府立舞鶴支援学校にて、「インクルーシブな学校運営モデル事業」1年次事業報告会を実施しました。会場への参加だけでなく、オンラインでの視聴にも多くの方が参加され、本事業の1年目の取組について広く発信することができました。

教職員アンケート結果報告



京都府立舞鶴支援学校
曾原 樹 教諭

舞鶴市立全小・中学校、府立聾学校舞鶴分校、府立舞鶴支援学校の教職員を対象に実施したアンケートから、「インクルーシブ教育についての考え方」や「学校のインクルーシブ教育の状況」「今後インクルーシブ教育を推進するために必要なこと」等に関する質問項目の結果について報告しました。

先進校視察報告



舞鶴市立池内小学校
平野 琢也 教諭
京都府立舞鶴支援学校
大下 雄平 教諭

本事業の研究の一環としての「先進校視察」では、インクルーシブ教育の研究や取組を進めておられる学校を訪問し、授業を参観したり、研究発表や研究協議に参加したりしました。視察に行った教員を代表し、2名の教諭がそれぞれ石川県加賀市立小・中学校、長野県伊那養護学校への視察について報告しました。

パネルディスカッション「1年目の取組から感じたこと～「知り合う」を通じて～」



助言者
ファシリテーター
パネラー

弘前大学大学院
京都府教育庁指導部特別支援教育課
舞鶴市立中筋小学校
舞鶴市立池内小学校
舞鶴市立高野小学校
舞鶴市立城南中学校
京都府立舞鶴支援学校
京都府立聾学校舞鶴分校

菊地 一文 教授
池嶋 俊也 指導主事
福井 博教 校長
畑本 公孝 教頭
川北 真以子 教諭
奥澤 愛 教諭
石黒 健太 総括主事
桐村 幸佑 教諭

パネルディスカッションでは、各校代表のパネラーが、本事業研究の1年目としてどのようなことに取り組んできたのかについて、写真を提示しながら紹介しました。交流における子どもたちの様子や変化、取組を進める中での教職員の変容等の成果、一方で交流したからこそ見えてきた課題や悩みについて、それぞれの立場で感じたことを発信しました。

また、来年度のキーワード「つながり合う」に向けて、各校が考えている交流及び共同学習、また具体的な取組等についても意見を出し合いました。

菊地教授からは、研究指定校教員の前向きな取組への評価と、本事業を通じた2年後の教員や児童生徒の変容に対する期待、さらには舞鶴市全体のインクルーシブ教育の発展に向けての助言をいただきました。

講演「舞鶴ならではのインクルーシブ教育に期待すること」



香川大学 教育学部 坂井 聡 教授

香川大学教育学部教授であり、香川大学教育学部附属特別支援学校の校長でもある坂井先生から、これからの舞鶴のインクルーシブ教育に期待することについて講演をしていただきました。

講演では、何のためのインクルーシブ教育なのか、障害とは何か、今後舞鶴でインクルーシブ教育を進めていくためにできることはどんなことか等について、先生御自身の豊富な経験を交えながら、本事業のさらなる発展に向けて参考になる貴重なお話を聞かせていただきました。

これからのインクルーシブ事業～2年目「つながり合う」に向けて～

- ・教育課程に位置付けられた、教科等でつながる交流及び共同学習の在り方を検討する。
- ・小・中学校の空き教室等を利用した支援学校との定期的な交流及び共同学習を実施し、よりよい環境及び体制づくりに向けた取組を進める。
- ・小学校に「学び支援室（仮）」を設置し、自立活動の指導を軸とした小学校と支援学校教員の連携による指導の充実を図る。